

第4分科会

大学図書館からの学習支援

報告者

佐々木奈三江（徳島大学附属図書館 学術情報図書課 利用支援係長）

北村 由美（京都大学附属図書館 研究開発室 准教授）

沖田 彩子（大谷大学図書館 図書・博物館課 チームリーダー）

大西 協子（大谷大学図書館 図書・博物館課員）

後藤 敦史（追手門学院大学附属図書館 課長補佐）

コーディネーター

松戸 宏予（佛教大学 教育学部 准教授）

参加人数

41名

現在、大学図書館は、学習支援や教育活動へ直接的に関与することが求められている。当分科会では、「ラーニング・コモンズ」、「学習スキル」、「特別なニーズをもつ学生に対する支援」に焦点を当てて、事例紹介を行いながら検討する。

「ラーニング・コモンズ」では、徳島大学図書館の、図書館職員・大学教育センターの教員・学生が「繋ぎ create」をキーワードに、連携してラーニング・コモンズの企画を行った事例を紹介する。「学習スキル」では、京都大学図書館機構が、全学共通科目「学術情報リテラシー入門：図書館と Web 情報の活用」に参画し、文献調査等に必要な学習スキルを提示しているほか、学習サポートデスクなどの学習支援の取り組みも併せて紹介する。「特別なニーズを持つ学生に対する支援」では、大谷大学の図書館担当職員が、「障がい学生担当者会議」のメンバーとして全学的な特別支援の取り組みに携わっている事例を紹介する。

なお、これらの取り組みは、他部署とのチームアプローチを軸として、試行錯誤を経て、実践された事例である。追手門学院大学図書館からは、他部署と図書館との連携についての現状報告や問題提起を行う。

〈第4分科会〉

大学図書館からの学習支援

分科会のねらい

今、大学図書館では、変革する大学にあって求められる大学図書館像として学習支援及び教育活動への直接の関与が大学図書館の機能・役割として求められている。

では、実際に、どのような形で、大学図書館は学生に学習支援を行っているのだろうか。ラーニング・コモンズ、学習スキル、特別なニーズをもつ学生に対する支援、他部署と大学図書館に焦点を当てて、事例紹介を行いながら検討する。

報告の概要

午前の部では、「ラーニング・コモンズ」、「学習スキル」、午後の部では、「特別なニーズをもつ学生に対する支援」、「他部署と図書館との連携」の各トピックに関する具体的実践事例の報告、質疑応答・意見交換を行った。以下は、各報告（詳細は発表資料参照）および質疑応答・意見交換の概要である。

午前の部

【第1報告】「徳島大学附属図書館におけるラーニング・コモンズ活用：Study Support Space (SSS) の取り組み

徳島大学附属図書館 学術情報図書課 利用支援係長 佐々木 奈三江 氏

「ラーニング・コモンズ」では、徳島大学附属図書館の、図書館職員・大学教育センターの教員・学生が「繋ぎ create」をキーワードに、連携してラーニング・コモンズの企画を行った事例を紹介した。

*自由にディスカッションしたり、コミュニケーションを図ったりしながら

グループ研究室・マルチメディア・カフェテリア

*人的支援 不十分

→FDへの参加

*学内の学習支援の文脈の中で活用される必要がある。

*アクティブ・ラーニングへの転換

*単位の実質化

→FD・SD セミナー「図書館を利用した学習支援」への登壇

*スタディレスキュー 後期試験前の2013/1/21～1/25に実施

学生が学習の疑問点やわからない所を教員に直接相談できる

Study Support Space

効果：気軽に相談できる リピーター率61%

課題：・認知度を上げる

・時間割調整

・学生アドバイザーの充実

・ピア・サポートルームの改善

・運営体制の安定化

・教員との連携

図書館は「教育支援に軸足を置いた図書館へ転換する」

図書館員がサポートに加わることで、業務分担ができる。

質疑応答

①トラブルは→教員の忘れ以外は、今のところなし。

②教務の立場から：教育支援課からサポートするのでは？

→2014年度から、図書館は学務部に組み込まれる。

③Study Support Spaceにおける教員の協力：ボランティアだが、学内的には「出張 Office Hour」として認識されている。

既設の学習支援室との違いは：内容や協力教員は



ほぼ同じ。設置母体と場所が違う。

④図書館員の関わり:最初はボランティア。ただし、SSSを軸に、業務として位置づけられる。

【第2報告】京都大学図書館機構による学術情報リテラシー教育

京都大学附属図書館 研究開発室 准教授 北村 由美氏

「学習スキル」では、京都大学図書館機構が、全学共通科目「学術情報リテラシー入門：図書館とWeb情報の活用」に参画し、文献調査等に必要な学習スキルを提示しているほか、学習サポートデスクなどの学習支援のとりくみも併せて紹介した。

*長尾真総長の構想を具体化する形で、1998年より全学共通科目「情報探索入門」を開始。

*情報活用方法に関するシステマティックな授業を、図書館が中心となって行う先行例を示す。

*図書館員のスキルアップや、図書館員の学内における存在感をアップさせる。

『情報探索入門』

→大学生に必要な学術情報リテラシーの育成を行うことは不可欠である。

他分野の教員と若干図書館員による講義と演習のリレー形式。

問題点：履修人数の減少 200名→40名

2012 工学部必須科目に含める。

2013 CAP制

「研究において自力でどこまで辿りつくことができたかについて、資料を通してみていく」

「分類は、視点・観点によって異なる」

*学術雑誌・図書の違い

レポート執筆のポイント、参考資料から始まる文献調査に関する講義

*演習：キーワードマップの作成

*演習：参考資料とDBを活用した文献収集

*演習：文献管理ツールを使った文献の管理・共有

*スタッフの成長

*採用初年度から数年にわたって、チーム体制で責任を持って授業支援を行うことによって、図書館員としてのスキルを磨くとともに、大学教育について考える機会となっているのでは？

課題：

*学内における教養教育の再編成の中で、どのように位置づけていくか

*FDプログラムへの発展

*ラーニングコモンズを開設するうえで、図書館機能を見直す。その大学にあったラーニングコモンズを見直す。

質疑応答

①後期の授業で、受講生が減少している。→授業を前期に戻すということはないのか？授業内容、大学図書館員を考えると、後期の方が良い。

②初年次教育に図書館利用者教育を含めているのか→京都大学1年3000名 情報リテラシー教育で対応。

③グラフより、受講者数の減少について
1～4年の学生数12000名から、受講者数を見ると割合は少ない。
インターネット環境にしているからこそ、この授業をアピールしなければならない。

④履修人数の減少の要因は、小・中・高の期間、図書館をほとんど利用していない？
小・中・高のグループワークをあまり体験していないのでは？大学のプログラムだけではなく、小・中・高との連携が必要。

午後の部

【第3報告】障がい学生への学生生活サポートについて～大谷大学の取り組み～

大谷大学図書館 図書・博物館課 チームリーダー 沖田 彩子氏

大谷大学図書館 図書・博物館課員 大西 協子氏

「特別なニーズを持つ学生に対する支援」では、大谷大学の図書館担当職員が、「障がい学生担当者会議」のメンバーとして全学的な特別支援の取り組みに携わっている事例を紹介した。

1 大谷大学の概要

配慮学生数 36名/3600名

2 学生への支援方針：

職員の意識の変換 取り組みの変換

受験相談→入学試験→在学→就職活動→卒業

2009年9月に障がい学生担当者会議の発足（事務局7部署）

コア 学生支援課&保健室 学生相談室

入学センター、総務課（施設担当）、教務課、教育研究支援課、図書・博物館課、キャリアセンター
大学職員としての学ぶ場となる。

例：受験相談

問題提起から検討へ向かう経過を他部署との連携

による見通し、解決までの展望をシミュレーションできる機能を備える場を目標。

3 障がい学生担当者会議への取り組み

- ・ インタークシートの作成
 - ・ 環境整備への提案
 - ・ 事業計画（予算措置）への提案
 - ・ 研修会の開催
 - ・ 学外研修会への参加
 - ・ 学外視察の実施
 - ・ サポートの実際（教員／学生）
- 社内メールでも情報交換

5年前までは、その場の対応（例：事務間での情報交換の遅れ→顔合わせ程度の打ち合わせ）

入口から出口まで全学で考えよう！

生き抜く力を養って社会に送り出そう！

インタークシートとは：入学前相談の段階から配慮状況を把握し、準備に着手。受入体制検討の資料とする。

- ・ 各部署で情報共有

研修会（テーマ）

- ・ 受験前相談より入学までの手順案
- ・ 障がい学生の支援・対処方法の報告
- ・ 障がい学生支援に関する組織フローチャートの提案
- ・ インタークシートの提案
- ・ 高等教育における合理的配慮
- ・ 学ぶ主体を育てる入学前の取り組みと合理的配慮など

4 大谷大学図書館概要

5 図書館利用における支援

- ・ 学習環境の整備&自主学習の支援



例*音声読み上げソフトを導入したPCを貸出

*データベース型資料の利用指導と補助

*図書館案内ガイドヘルプ（図書資料の出納、館内移動補助など）

*図書館事務連絡等のテキスト化

6 大学図書館におけるこれからの展望

電子資料の活用

・ 電子資料の利用が簡便になれば、障がい学生の学習方法も変化する可能性が期待される。

・ 著作権法第37条に対する模索

「図書館ガイドライン」に受けて、実際の支援をどう展開していくかを考える。

*図書館サービスの特性を大学事務局に還元し、全学が一体となったより良いサポート体制の構築に参加していきたい。

質疑応答：

①インタークシートは、障害者手帳をもつ受験生が利用するのか

→障害者手帳をもたない学生も、利用する（例：うつ病）

サポート学生としてみなす。学生生活を送るうえで、入学試験を受ける人前提で。

実績としてはないが、誰に対しても門戸は開いている。

②図書館・博物館スタッフ人数の確認：専任9名のうち、1名は博物館担当。嘱託8名、アルバイト6名、派遣職員8名は、博物館には関わっていない。

③2009障がい学生担当者会議のきっかけ：事務の連携が取れていなかったことが各部署で問題視。視覚障がいの学生2名が入学。対応をするうえで、それまでの体制では対応できないことを、各部署が認識した。

【第4報告】大学図書館から学習支援を～図書館と他部署との連携・連動による大学規模の学習支援へ～

追手門学院大学附属図書館 課長補佐 後藤 敦史 氏

第1から第3までの取り組みは、他部署とのチームアプローチを軸として、試行錯誤を経て、実践された事例である。追手門学院大学図書館からは、他部署と図書館との連携についての現状報告や問題提起を行った。

・ 情報センターと図書館が1つの部に統合予定（2014年度）

*情報リテラシー教育

- *利用・貸出促進
 - ・ 図書の展示紹介
 - ・ 学生選書の実施
 - ・ ブックトーク
- *学習環境の整備
 - ・ ゾーニングの実施（2012年度）
 - ・ ラーニング・コモンズの設置・貸出用ノートPCの運用

図書館に対するイメージ：

- * 自部署の仕事(事務)については、プロフェッショナル。他部署については
- * 学習支援って教員の仕事では？

ギャップの要因

- ・ 物理的要因 大学図書館は別棟または別フロア
- ・ 制度的要因 大学各部署のセクショナリズム
- ・ 日本における「図書館」の偏った認識(資料の収集・保管など)
- ・ 図書館外への人事異動が少ない

学生から見ると

- ・ 図書館員も他部署職員も同じ事務職員
- ・ 図書館と他部署との違い：学生の主体的な居場所があること
- ・ 本を借りたり、自習したりする以外の図書館の使い方を知らない

ギャップを埋めつつ、展開してみよう

- ・ 図書館の資源を有効活用した学習支援を
- ・ 図書館が展開している学習支援を、図書館だけでなく、他部署と連携してみる。

教員との連携

「授業関連図書コーナー」を設置して、教科書、授業で紹介する資料、課題の参考資料について教員の希望により配架する。

『ベンチャービジネス』との連携

英語多読書の貸出

- ・ E-COの運営は業務委託
- ・ 複本のある英語多読書をE-COに貸出、E-CO内での閲覧・活用を提案

企業情報データベース検索セミナー

- ・ 図書館が実施するデータベース講習会

課長間調整を経て、就職センター業務委託チームへ図書館から共催セミナーを提案

* 共催にした理由：

- ・ ニーズの絞り込みが容易にできる。
- ・ 集客力 学生の信頼
- ・ 講師：就職センター職員と図書館職員とで担当

* その道のことは、その道の人に聞くと「ニーズ」・「タイミング」・「方法」が見えてくる。

* 他部署の仕事に干渉するのではなく、理解し一緒に考える「自部署できていることは何か」

周りを見よう。お互いを理解しよう。

- ・ 自分の（部署の）仕事以外にも目を向けよう。
- ・ まずは、自分から他部署または、図書館員と話してみよう。
- ・ どの部署で、どんなことをしているのか

連携から運動へ

- ・ テーマの担当部署のカリキュラム（＝当該部署の学習支援）にのることが肝心
- ・ どこかの部署がするのではなく、協業・連動する（役割分担）
- ・ 学生がうけるストーリーの一貫性を保つ。→効率的な学生・学習支援
- ・ 部署間から大学規模へ→大学規模の学習支援
- ・ 図書館員は専門職であるということを前提にしているが、一般職の図書館勤務者に対しても発表するうえでも、この話がどこまで成り立つのか。

質疑応答：

- ① 司書：専門職というが、国立は専門として配属だが、私大は事務職で配属された立場。専門職というプライドがない。討論では、その両方を

■ 大学図書館に求められる機能・役割

1. 学習支援及び教育活動への直接の関与

ア. 学習支援

学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、ラーニング・コモンズ、大学図書館職員等によるレファレンスサービス、学習支援が重要。

イ. 教育活動への直接の関与

2. 研究活動に即した支援と知の生産への貢献
3. コレクション構築と適切なナビゲーション
4. 他機関・地域等との連携及び国際対応

文部科学省、大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像
(平成22年12月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1306126.htm(参照日:2013/04/24)

踏まえて話し合いができたなら→報告者も配属された立場であるが、専門というバックボーンがないなかでの提案である。

- ②国立の専門職員といっても、取り組み意識に差がある場合もある。
- ③連携の関わり方：教員から話をもちかけても、シャットアウトの場合：目的を共有化、こういう問題をクリアするために、一緒にできないかといった関わりをもつことが大事なのでは。

(文責：松戸宏予)

徳島大学附属図書館におけるラーニング・コモンズ活用： Study Support Space(SSS)の取り組み

徳島大学附属図書館 学術情報図書課 利用支援係長 佐々木 奈三江

第19回 HDフォーラム 第4分科会 大学図書館からの学習支援

徳島大学附属図書館における ラーニング・コモンズ活用： Study Support Space(SSS)の取り組み

平成26年2月23日(日)
徳島大学附属図書館 学術情報図書課
利用支援係長 佐々木奈三江

目次

- はじめに
- 徳島大学のラーニング・コモンズ
 - 施設
 - 人的支援
- ラーニング・コモンズを実質化するために
 - FDへの参加
 - SSSの取り組み
 - SSSの実績
 - SSSの評価
- 学習支援のさらなる充実を目指して

はじめに

徳島大学の基本情報

- キャンパスは2つ
 - 常三島と蔵本。それぞれに図書館がある
- 学部は5つ
 - 総合科学部, 工学部
 - 医学部, 歯学部, 薬学部
- 学生は約7,800名, 教員約950名
- 図書館職員
 - 本館 定員 11名, 有期雇用 13名
 - 分館 定員 5名, 有期雇用 6名

徳島大学のラーニング・コモンズ

ラーニング・コモンズとは・・・

- 文部科学省 (2010) (1)
 - 複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。
- 徳島大学附属図書館(2)
 - 自由にディスカッションしたり、コミュニケーションを図ったりしながら自主的・創造的に学習に取り組める場所

施設だけでは「ラーニング・コモンズ」とは言えず、
その中で学習支援が行われること、学習サポートなどの
人的支援や学内の学習支援機関との連携が重要な要素と
なる。

施設について

2009年 耐震改修によりリニューアル・オープン
1階をコミュニケーション可能なゾーン、2階をサイレント・ゾーンとゾーニング

2012年1月 1階のレイアウトを変更し、「ラーニング・commons」として運用開始

ラーニング・commons
オープンのテラス

オープン時のお知らせサイトもご覧ください
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/news/news11/2012020301.html>



図書館本館1階 ラーニング・commonsのご案内

このたび図書館本館1階は、ラーニング・commonsとして生まれ変わりました！

生まれ変わりのポイント その1

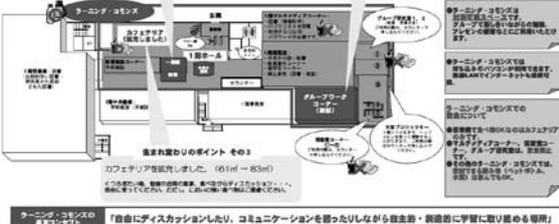
＜1階ゾーンで読書情報交換＞

●グループワークコーナーの設置
●1階ゾーンで読書情報交換
●1階ゾーンで読書情報交換
●1階ゾーンで読書情報交換

生まれ変わりのポイント その2

＜グループワークコーナーの設置＞

●グループワークコーナーの設置
●グループワークコーナーの設置
●グループワークコーナーの設置



「自由にディスカッションしたり、コミュニケーションを営んだりしながら自主的・創造的に学習に取り組める場所」

2012年1月に、「グループワークコーナー」を設置。
ここでは、ディスカッションしながら自由にグループ学習ができる。プレゼンなども可能。

グループ研究室 (2室)



マルチメディアコーナー (1階)
周りには関連書籍も配置





カフェテリアは玄関入ってすぐの場所
2012年1月、座席を32席→48席に拡充

2012年1月、カフェテリアのとなり、一般雑誌と新聞を読むコーナーを設置

1階グループワークコーナー奥に、視聴覚コーナーと視聴覚資料を設置







人的支援について

- 人的支援 (2009年6月～2012年1月までの状況)
 - 学習サポートスタッフ → 人件費確保できず
 - 学習支援室との連携 → 打診したが不調
 - ボランティアについて教員に相談
 - 「ライブラリー・ワークショップ」誕生→読書推進活動

➔ 施設面では「ラーニング・commons」の要素は満たしている。
人的支援や学内の学習支援機関との連携は不十分。

箱モノの「ラーニング・commons」ではなく、
本来の意味での「ラーニング・commons」にするために、
さらに模索

ラーニング・commonsって・・・

- ラーニング・commons設置は図書館利用者増が目的か？
- 大学図書館は何をしたらいいのか
 - ー 大学図書館に求められているものは？
 - 大学の教育・研究にいかに関与するか
 - 大学の教育がどこに向かっているか
 - 学士課程のパラダイムシフト→教育より学習を重視
 - ラーニング・commonsは図書館が大学教育に関わる装置

ラーニング・コモンズを
実質化するために

FDへの参加

- FDへの参加の意義
 - ラーニング・コモンズが実質的な効果をあげるためには、学内の学習支援の文脈の中で活用される必要がある。
 - アクティブ・ラーニングへの転換
 - 単位の実質化
- 徳島大学のFDの定義⁽³⁾

本学の教育理念・教育目標を実現するための取組みであり、教職協働の下に学生の参画を得て、組織的な教育改善・改革を推進し、その妥当性・有効性を不断に検証することにより更なる改善を図る活動

FDへの参加 ~FDを知る~

- 平成23年度全学FD大学教育カンファレンスin徳島 (2012/1/6) に参加，繋ぎcreateなどの学生団体を知る。
- 学生FD「TUGリンクス」への参加
 - TUGリンクスはその後活動停止，繋ぎcreateへ参加
 - 繋ぎcreateとは，徳島大学内でピア・サポート活動を行う学生・教職員によって構成された自主的なチームで，その中に複数の企画チームが存在している。
 - FD委員会の下部組織的存在であり，活動費用は学長裁量経費により支弁されている。ただし，学生への報酬は無い。
 - 図書館の業務としてではなく，個人として参加

➔ これらの活動から，大学教育委員会の情報を得ることができ，学内でどんなことが問題になっているかを知る機会を得た

FDへの参加 ~イベント実施~

- FD・SDセミナー「図書館を利用した学習支援」への登壇 (2012/11/30)⁽⁴⁾
 - 教員から，図書館で学習サポートを行ってみたいとの申し出があり，週1回ボランティアで試行的に開始

FDへの参加 ~イベント実施~

- スタディレスキューWeeeeeekの開催⁽⁵⁾
 - 繋ぎcreateの企画により，後期試験前の2013/1/21~25に実施
 - 「図書館1階のラーニング・コモンズを利用して，学生が学習の疑問点やわからない所を教員に直接質問することで解決し，学習内容を定着させることができる相談窓口を提供するもの」
 - NHKの取材で，認知度が高まる。図書館内でも評価があがる。
 - 常設できないか？→SSSへ

Study Support Space(SSS)

- SSSとは
 - 教員・大学院生が，図書館1階ピア・サポートルームで常設の学習支援を行う企画
 - 2013年4月12日よりオープン
 - 場所は，図書館で空き部屋となった事務室を流用
 - 徳島大学附属図書館，全学共通教育センター，学務部教育企画室，学務部教育支援課が後援
 - SSS企画チーム（繋ぎcreate）による運営

SSS企画チーム

- チームの理念
 - 大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う。
- スタッフ構成
 - 学生3名、教員1名、職員2名（2014年1月現在）
- スタッフの仕事
 - アドバイザーへの協力依頼、時間割の調整、相談内容の記録・分析、SSSの広報活動

カウンター横に設置した時間割表



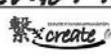
SSS学習支援内容・アドバイザー（12・1・2月）

2013年11月27日現在

時間帯	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
14:30 ↓	数学 大沼 正樹 先生	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生	情報科学・レポートの書き方 金西 計英 先生	物理学・レポートの書き方 斉藤 隆仁 先生	
16:00 ↓	レポートの書き方 出口 桜子 さん	英語 宮田 政徳 先生	数学 大淵 朗 先生		心理学・レポートの書き方 野間 あずさ さん
17:00 ↓	物理学・レポートの書き方 古原 玲 先生	物理学・他 小山 晋之 先生	文献の探し方 佐々木奈三江 さん	英語・留学相談 福田 STEVE 先生	化学 森岡 俊広 先生
18:00 ↓	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生		物理学 日置 善郎 先生	基礎生物理学・レポート相談 佐藤 高則 先生	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生

★上記の時間割とは一部異なる場合があります。SSSを利用する場合は、以下のいずれかの方法で最新の情報をご確認ください。
 ①ピア・サポートルーム前時間帯掲示板 ②徳島大学附属図書館ホームページ

気軽に質問に来てくださいわ！！

Study Support Space 



SSSの実績⁽⁶⁾

- アドバイザーはすべてボランティアとして協力教員12名、図書館職員1名、大学院生2名（2013年後期）
- 2013年4月～12月末まで平日に毎日実施
実施日数は131日
- 累計相談者数は314名（前期は210名）
※最終（2/7まで） 352名
- 対応科目は数学、物理、化学、生物、英語、レポートの書き方、他

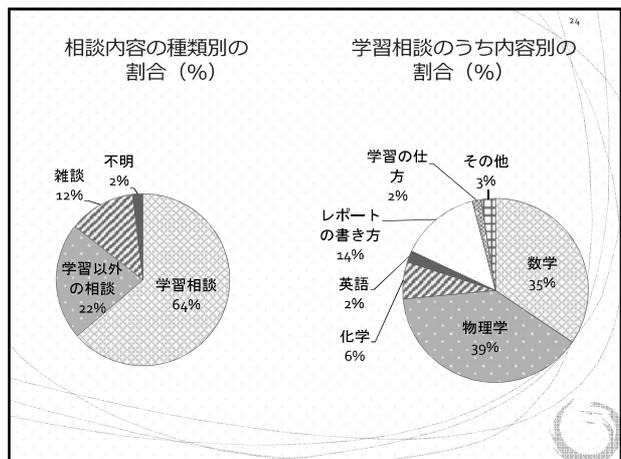
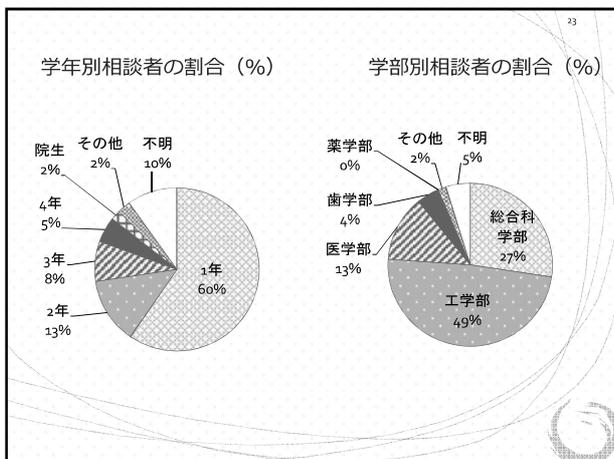
ピア・サポートルームの様子

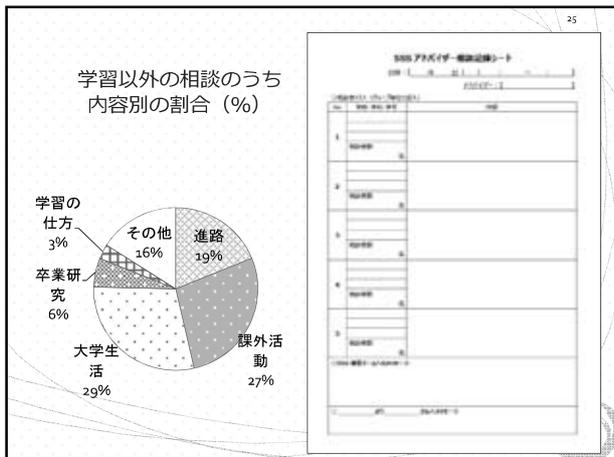


SSS利用者の内訳（人）

	総合科学部	工学部	医学部	歯学部	薬学部	その他	不明	合計
1年	44	93	40	10	0	0	0	187
2年	22	17	0	0	0	0	2	41
3年	10	15	0	0	0	0	0	25
4年	6	9	1	0	0	0	0	16
院生	0	6	0	0	0	0	0	6
その他	1	0	0	1	0	5	1	8
不明	3	13	0	3	0	0	12	31
合計	86	153	41	14	0	5	15	314

集計期間：2013.4.12～2013.12.20





SSSの評価

- 7月に、図書館アンケートの一環として調査
 - SSSの認知度, SSSで行ってほしい支援内容
- 8月に、アドバイザーに対してアンケート実施
 - SSSの改善点, 学生の様子, 学生にとっての意義, アドバイザーにとっての意義, 広報活動, その他
- 11月に、SSSに対するアンケート実施
 - SSSの認知度, 利用の有無, 利用回数, 相談内容, 満足度, SSSへの要望

図書館アンケートの結果

- 対象：図書館利用者のみ
- 配布500, 回収295 (回収率59%)
- 認知度

SSS (Study Support Space) を知っていますか？ また、利用したことはありますか？

	知っている	知っているが利用したことはない	知らない	回答無	計
回答	19	137	98	18	272
	7.0%	50.4%	36.0%	6.6%	100.0%

図書館アンケートの結果

- SSSで行ってほしい支援内容 (複数回答可)

SSSで行ってほしい支援内容は何か																
	書き方のレポート	大学の勉強の仕方	文庫の探し方	数学	物理	化学	生物	統計	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	TOEIC対策	定期試験対策	その他	計
回答	80	48	26	17	17	15	10	16	21	7	3	7	51	69	4	391
	20.5%	12.3%	6.6%	4.3%	4.3%	3.8%	2.6%	4.1%	5.4%	1.8%	0.8%	1.8%	13.0%	17.6%	1.0%	100.0%

自由記述

- 進路相談
- 卒論をかくにあたってのアドバイス
- 社会人も参加, 有料で可, 旅行, 語学, 開放実践センタ。
- 夜間の学生にはまほ活用できないのが残念。
- 民間の外部の人向けのSSSなんかもあっても良いと思う。

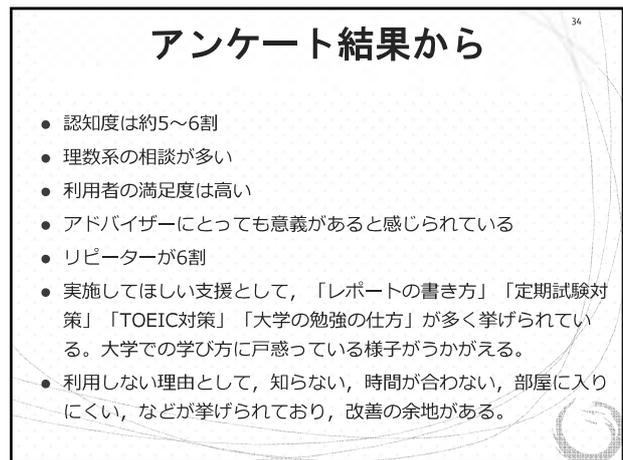
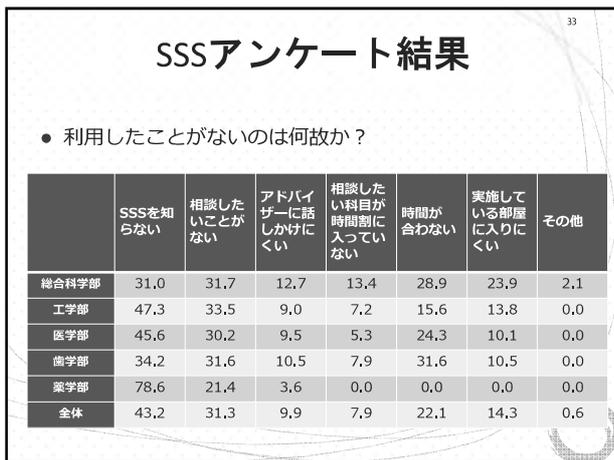
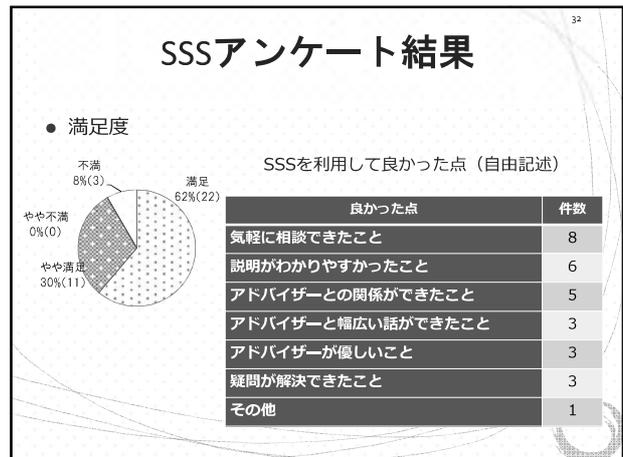
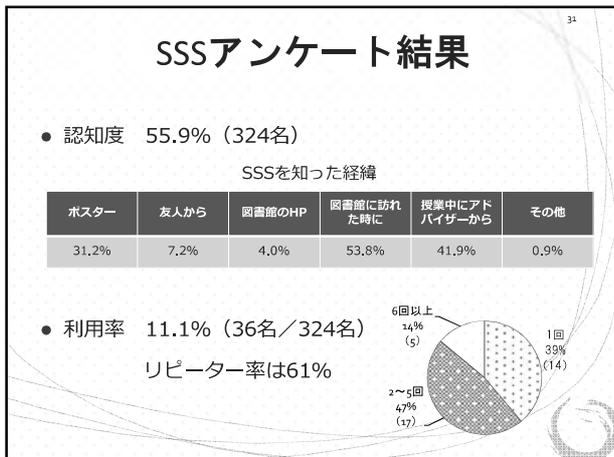
- ### アドバイザーへのアンケートの結果
- SSSの改善点
 - 設備や環境に関する改善の要望。設置場所やネットワーク環境など
 - 広報
 - 学生にとっての意義
 - 気軽に相談できる場
 - 教員との関係構築
 - 意義はわからない (相談が少ない)
 - アドバイザーにとっての意義
 - 学生の様子がわかる
 - 授業改善につながる
 - 他の授業の様子が分かる
 - 学習に対する意識の向上 (大学院生)
 - その他
 - 安易な質問窓口にならないように。まずは自分で考えること。

SSSアンケート結果

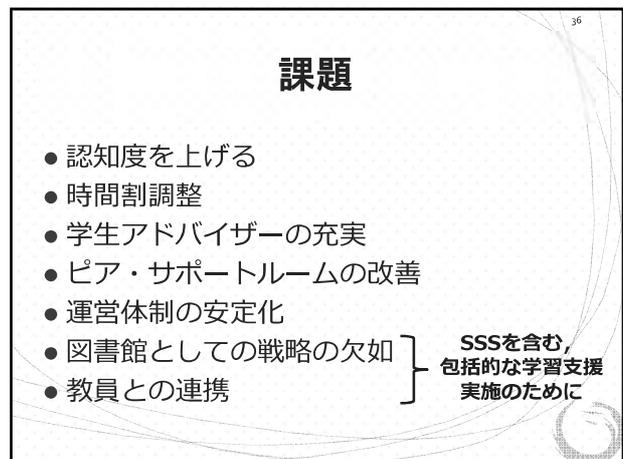
- アドバイザーが担当する授業, アドバイザーではない教員が担当する授業, および図書館でアンケート配布。
- このうち, 1~2年生を対象に分析。

分析に使用する学生アンケートの回答者の内訳 (人)

	総合科学部	工学部	医学部	歯学部	薬学部	合計
1年	133	152	179	38	24	526
2年	16	32	0	1	5	54
合計	149	184	179	39	29	580



学習支援のさらなる充実を目指して



課題解決に向けて

- 「徳島大学機能強化プラン」の策定⁽⁷⁾
 - 教育機能改革の一つとして「図書館機能の強化」が挙げられている（⑦学生支援）
 - 学生のピア・サポートについても、推進していく（③社会変革を可能とする創造性を育む教育への質的転換）
- 「図書館の改革の方針」の策定
 - 図書館は「教育支援に軸足を置いた図書館へ転換する」

目指すもの

- 図書館で学習支援を行うメリット
 - 学生
 - いつものわかりやすい場所で支援を受けることができる。
 - 他の学生の学習の様子が見え、モチベーションが上がる。
 - 学習に必要な文献がある。
 - 教員
 - 図書館職員がサポートに加わることで、業務負担ができる。
 - 学生にとっては、職員は教員よりもハードルが低い存在・・・？
 - 新しいタイプの授業ができる可能性がある。

➔ **今、困っている問題を解決する、ということのみではなく、アクティブ・ラーニングを推進する仕掛けを作る**

**大学教育の中で
図書館が多くの“知”と出会い
促進する場となること
Ⅱ
大学教育のファシリテーターに**

参考文献 1

- (1) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会
「大学 図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－」2010.12
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm
(参照 2014-1-10)
- (2) 徳島大学附属図書館報告メールマガジンすだち「徳島大学附属図書館本館1階が「ラーニング・commons」に生まれ変わりました！」No.84, 2012.01.20,
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/084/index.html>
(参照 2014-1-10)
- (3) 徳島大学FDの定義
<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/category/0000683.html>
(参照 2012-11-12)

参考文献 2

- (4) 徳島大学附属図書館報告メールマガジンすだち「FD・SDセミナー『図書館を利用した学習支援』で発表しました」
No.95, 2012.12.17,
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/095/95-6.html>
(参照 2014-1-10)
- (5) 徳島大学附属図書館報告メールマガジンすだち「「スタディーレスキューWeeeeeek」を開催しました」No.97, 2013.2.19,
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/097/97-8.html>
(参照 2014-1-10)
- (6) 吉田博ほか「大学図書館で実施する学習支援の成果と課題—Study support Spaceの実践から—」大学教育研究ジャーナル11号掲載予定
- (7) 徳島大学機能強化プラン <http://www.tokushima-u.ac.jp/> (参照 2014-1-10)

大学図書館では、図書館員が資料の収集・保存・提供という伝統的に担っていた役割を超えて、いかに主体的に教育、研究に関与できるかという課題が検討されて久しい。さまざまな試みが試行錯誤される中、大学教員と図書館員の協働による学部生向けの学術情報リテラシー教育の提供というのは、そのような課題へ答える一つの大きなステップであったといえる。本発表では、京都大学図書館（機構）が15年に亘って開講してきた、学術情報リテラシーに関する講義を紹介した上で、今後の課題について私見も交えて述べたい。

京都大学図書館（機構）では、1998年年度より全学共通科目の枠組みで、「情報探索入門—図書館とインターネット情報の活用—」という授業を開講してきた。今年度より、講義タイトルを「学術情報リテラシー入門—図書館とWeb情報の活用—」と変更したが、講義の目的は、当初より学部生の学習・研究の基本的なスキルである、文献収集と活用の方法を総合的に教授することにある。

本講義は総勢約20名の教職員が関与し、①分類、②目録、③インターネット・データベース、④参考資料、⑤総合演習という図書館における資料区分や整理の概念で5つのチームに分け、それぞれ教員が冒頭の講義を、演習を図書館員が担当している。講義は、理系の教員が担当しているコマもあり、文系・理系を問わず担当教員の専門分野に照らし合わせて、各概念がどのような意味を持っているか、どのように研究に役立てているかを紹介している。演習では、図書館員の説明と補助を受けながら、学生が図書館とWeb情報を活用した課題に取り組む形式をとっている。

演習担当の図書館員は、就職1年目から3年目の若手職員が中心であるため、図書館員のスタッフ・ディベロップメント（SD）の側面もある。SDとしては、講義スキルを修得するという点も重要だが、大学教育において、図書館が、そして図書館員がどのような教育支援を行っていけるのかを考え、実践する場としての意義は大きい。

さて、21世紀に入り、大学改革や大学の国際化が進む中で、大学図書館関係者の問題意識はさらに多様化してきているといえる。京都大学図書館機構では、「情報探索入門—図書館とインターネット情報の活用—」を一つの核として、各図書館・室による講習や講義などの学術リテラシー教育をどのように重層的かつ有機的に行えるかの検討をすすめている。また、留学生サービスの拡充も、様々な形で実践をすすめている。その上で、2013年度より学内に設置された国際高等教育院によって、全学共通科目を中心とする教養教育の再編が行われる中で、このような図書館による試みをどのように位置づけていくのかというのが今後の課題となるだろう。また、学術情報リテラシースキルをファкультイ・ディベロップメント（FD）にいかに取り入れるか（取り入れてもらうか）という点についても、検討していく必要があるといえる。

京都大学図書館機構による
学術リテラシー教育

京都大学附属図書館研究開発室
北村 由美

本発表の要旨

- 図書館による学習支援に一例として京都大学図書館機構が参画している全学教育科目『学術情報リテラシー入門：図書館とWeb情報の活用』（旧『情報探索入門』の詳細を紹介
- 京都大学附属図書館におけるその他の学習支援サービスの紹介

京都大学図書館機構とは？

- 附属図書館を含め、全学に50以上ある図書館・室の全学的な調整を行う目的で2007年4月に発足
- 附属図書館長＝機構長

『情報探索入門』開講当初の状況

- 長尾真総長の構想を具体化する形で、1998年より全学共通科目『情報探索入門』を開始
- 情報活用方法に関するシステムティックな授業を、図書館が中心となって行う先行例を示す
- 図書館員のスキルアップや、図書館員の学内における存在感をアップさせる

慈道佐代子(1998)「全学共通科目『情報探索入門』の試みー図書館の役割について『静稿』

『情報探索入門』開講の目的

- 報告書を書くための情報収集、卒業論文のための文献調査などに必要な情報活用技術を演習によって習得させながら、情報図書館学、情報探索学の概要を学ばせる
- 文系、理系それぞれに適した演習を用意し、学生に選択させて具体的な技術を習得させる

慈道佐代子(1998)

『情報探索入門』開講当時の授業構成

第1回	大学図書館への招待(長尾総長)
第2回・第3回	分類の一般的概念と分類理論
第4回	情報の種類
第5回・第6回	目録情報とその利用法
第7回・第8回	データベースの種類とその利用法
第9回・第10回	インターネット情報と利用法
第11回・第12回	参考資料の種類とその利用
第13回	図書館情報、および図書館の種類と機能

菊池光造図書館長(経済学)・川崎良孝教授(図書館情報学)
金子周司助教授[当時](薬学)・黒橋禎夫講師[当時](情報学)
図書館員15名

慈道佐代子(1998)

さらに複雑になる学術情報・・・

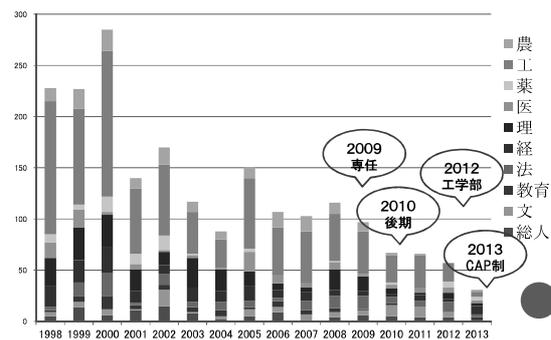
- 電子ジャーナル (6万タイトル以上)
- 電子ブック (24万タイトル以上)
- データベース (100種類以上)
- 印刷資料 (660万点以上)
- 機関レポジトリ登録数 (10万件以上)



開講当初から連続する問題意識と態勢

- 「分類」「目録」という情報を組織するための仕組みを理解した上で、「参考資料」「データベース」「インターネット」など様々な資料を活用する学習・研究を行う、大学生に必要な学術情報リテラシーの育成を行うことは不可欠である
- 多分野の教員と若手図書館員による講義と演習のロー形式

変更点とその影響



2014年度の講義内容紹介



- 第1回
引原隆士機構長(工学研究科教授)による講義
『大学図書館の機能と研究活動』
「研究において自力でどこまで辿りつくことができたか、その距離を資料の中で見ていくことが重要」

第2回～第4回 『分類の一般概念と分類理論』



- 第2回
黒橋禎夫教授(情報学研究科)による講義
「分類は、視点・観点によって異なる」

- 第3回・第4回
図書館員4人による演習
・図書館による分類
・OPACの使い方
・図書館訪問



第5回・第6回 『目録情報とその利用法』

- ・川崎良孝教授(教育学研究科)による「図書の並べ方・探し方(目録)の歴史」に関する講義
- ・演習: 書誌の見方(雑誌と図書の見分け方)
- ・演習: 図書館見学



第7回～第9回 『インターネット情報およびデータベースとその活用法』

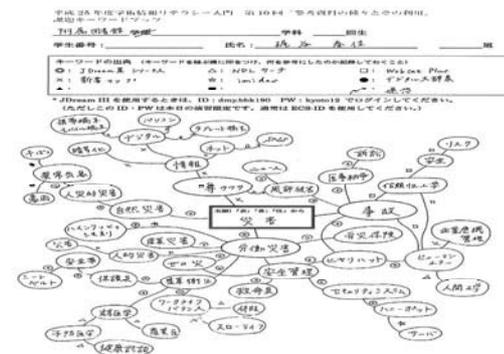
- ・金子周司教授(薬学研究科)による主に薬学・医学分野におけるオンライン学術情報の現状と特性に関する講義
- ・演習: Web of Science / Ciinii Articles / J-Global / Google ScholarなどDBの活用やネット情報の評価基準

第10回～第12回 『参考資料の種々とその利用』
 第13回・第14回 『総合演習』
 (学生によるグループ発表)

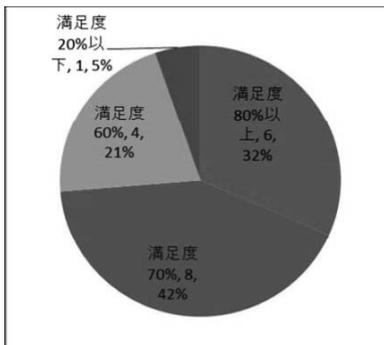
- レポート執筆のポイント、参考資料から始まる文献調査に関する講義(北村担当)
- 演習:キーワードマップの作成
- 演習:参考資料とDBを活用した文献収集
- 演習:文献管理ツールを使った文献の管理・共有
- 発表:「衣」「食」「住」からテーマを設定し、文献をレビューした上で、研究計画を発表



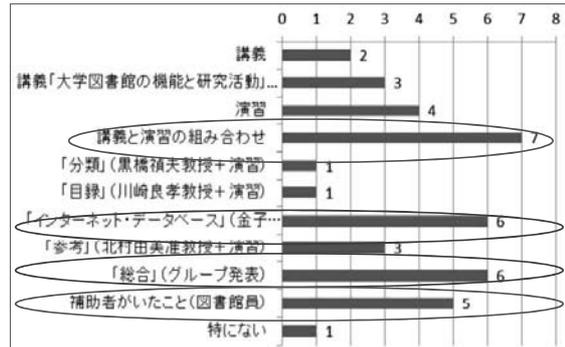
キーワードマップとは？



アンケート結果:
 「この授業の満足度を7段階で評価して下さい」



アンケート結果:
 「この授業を受けて特に良かったところはどこですか？」



スタッフの成長

- 採用初年度から数年にわたって、チーム態勢で責任を持って授業支援を行うことによって、図書館員としてのスキルを磨くとともに、大学教育について考える機会となっているのでは？

今後の課題

- 学内における教養教育の再編成の中で、どのように位置づけていくか
- FDプログラムへの発展？

授業用ページ
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

「京都大学オープンコースウェア」
<http://oow.kyoto-u.ac.jp>

その他の学習支援
 2013年10月～ 『学習サポートデスク』

学習サポートデスクが Facebook を始めました！
 Learning Support Desk starts Facebook!!

COMING SOON!
 2014年4月～ ラーニング・コモンズ

障がい学生への学生生活サポートについて ～大谷大学の取り組み～

大谷大学図書館 図書・博物館課 チームリーダー 沖田 彩子
大谷大学図書館 図書・博物館課員 大西 協子

2013年度第19回FDフォーラム(2014年2月22・23日)
社会を生き抜く力を育てるために

第4分科会 大学図書館からの学習支援

障がい学生への学生生活サポートについて
～ 大谷大学の取り組み ～

大谷大学図書館 沖田 彩子
大西 協子

◎はじめに

1. 大谷大学の概要
2. 学生への支援方針
3. 障がい学生担当者会議の取り組み
4. 大谷大学図書館の紹介
5. 図書館利用における支援
6. 大学図書館におけるこれからの展望

1. 大谷大学の概要

- ◆学生数(2013年5月1日現在)
 - * 文学部(9学科) 3,242名
 - * 大学院文学研究科(7専攻) 128名
 - * 短期大学部(2学科) 193名
 - ◆配慮学生数
 - * 文学部 36名
 - * 大学院文学研究科 0名
 - * 短期大学部 1名
- ◀内訳▶ ・視覚障害 2名 ・聴覚障害 6名 ・肢体不自由 4名 ・その他 25名

◎配慮学生受入の推移(2009～2013年度)

	2009	2010	2011	2012	2013
視覚障害	2	2	2	4	2
聴覚障害	3	7	9	10	6
肢体不自由	5	3	4	5	4
その他	25	24	32	26	25

※日本学生支援機構
「大学、短大、専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」回答より

2. 学生への支援方針

☆Keyword☆

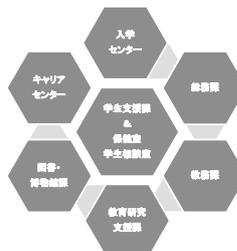
入口から出口まで
全学で考えよう!

生き抜く力を養って
社会に送り出そう!



◎配慮学生に対する全学サポート体制

障がい学生担当者会議の発足(2009年9月)

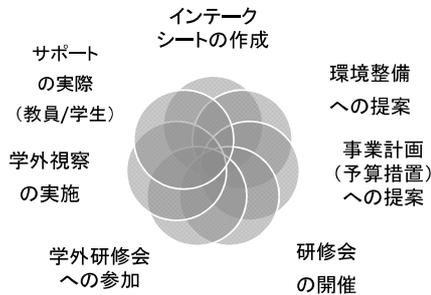


* 障がい学生・配慮学生に対する
専門の部署はなく、各事務局毎
の担当者が本務と兼任で対応。
→部署横断型会議体を発足。

* 問題提起から検討へ向かう経過
を他部署との連携により見直し、
解決までの展望をシミュレーショ
ンできる機能を備える場を目標。

* 情報共有、意見交換の場として、
定例会議(月1回)を開催。

3. 障がい学生担当者会議の取り組み



◎インテークシートの作成



入学前相談の段階から配慮状況を把握し、準備に着手。受入体制検討の資料とする。

- 視覚障がい者用
- 聴覚障がい者用
- 肢体不自由者用

《作成続行中》

<インテークシート* 視覚障がい者用>

1. あなたの障がいについて教えてください。
2. 学校の構内での移動はどのような手段でおこなっていますか？
3. 高校までの教育環境について教えてください。
4. 高校の授業にて受けている支援について、以下の事項に回答してください。
 - ① 授業全般で受けている支援について教えてください。(複数回答可)
 - 教科書や配布資料を点訳してもらった。
 - 教科書や配布資料をデータもらった。
 - 点字電子手帳(ブレイルメモ等)を使用。
 - 授業内容を自身で録音した。
 - 板書内容をデータもらった。
 - 付添者にメモをとってもらった。
 - 資料を拡大してもらった。
 - 座席を前列に配置してもらった。
 - 板書内容を読みあげてもらった。
 - 先生にゆっくり話してもらった。
 - 指示語は具体的な言葉に置き換えて説明してもらった。
 - 教科書や配布資料とは別に補助資料を作成してもらった。
 - ② 個別の授業について教えてください。
 - 実習や実技を伴う授業(音楽や体育など)で受けている支援があれば教えてください。
 - 古典や漢文の授業で、受けている支援があれば教えてください。
 - 地図や統計表など、図表をともなう授業で、受けている支援があれば教えてください。
 - 学校の授業などでのパソコンについて教えてください。

……つづく

◎研修会・グループワークの開催

<テーマ>

- 受験前相談より入学までの手順案
 - 「障がい学生の支援・対処方法」の報告
 - 「障がい学生支援に関する組織フローチャート」の提案
 - 「インテークシート」の提案
 - 高等教育における合理的配慮
 - 学为主体を育てる入学前の取り組みと合理的配慮
- など

4. 大谷大学図書館 ～概要～

1. 基礎データ(2012年度)

蔵書冊数	827,470冊
入館者数	140,091人
開館日数	261日
電子資料提供数(DB/EJ等)	11/1,058種
点字資料数(図書)	568冊

2. 職員体制(2013年5月1日現在)

専任職員	9名
嘱託職員	8名
アルバイト職員	6名
派遣職員	8名
その他	ライブラリアシスタント11名・学生アルバイト9名

4. 大谷大学図書館 ～施設～



4. 大谷大学図書館 ～障がい者用設備～

- 多目的閲覧室
- 車いす対応机
- 車いす対応AVブース
- 点字案内板
- 障がい者用トイレ
- 2階入館ゲート(※)
- スクリーンリーダー
- カラー拡大読書器
- デイジー再生機
- ライトプレーラー
- Braille Note
- 点字プリンタ

5. 図書館利用における支援

～「教育を受ける」機会・「学習する」機会の平等を実現とする支援～

◆学習環境の整備

「授業における配慮」 & 「自主学習の支援」

○視覚障がい

- * 図書館内ガイドヘルプ(図書資料の出納、館内移動補助等)
- * 専用の閲覧室設置
- * 「音声読み上げソフト」を導入したPCを貸出
- * NDL-OPACやサビエなどのWeb目録の検索指導と補助
- * データベース型資料の利用指導と補助
- * 図書館資料のデータ化
- * 図書館事務連絡等のテキスト化

○肢体不自由

- * 図書館内ガイドヘルプ(図書資料の出納、入退館補助等) →入館ゲートの増設(※)
- * 生活介助(トイレ補助等)

6. 大学図書館におけるこれからの展望

◆電子資料の活用

電子資料の利用が簡便になれば、障がい学生の学習方法も変化する可能性が期待される。

◆著作権法第37条に対する模索

「図書館ガイドライン」を受けて、実際の支援をどう展開していくかを考える。

◎おわりに

全学サポート体制の構築を目指して
!

図書館サービスの特性を大学事務局内に還元し、
全学が一体となったより良いサポート体制の構築
に参加していきたい。

ご清聴、
ありがとうございました。

大学図書館から学習支援を ～図書館と他部署との連携・運動による大学規模の学習支援へ～

追手門学院大学附属図書館 課長補佐 後藤 敦史

追手門学院大学

大学図書館から学習支援を ～図書館と他部署との連携・運動による 大学規模の学習支援へ～

追手門学院大学附属図書館
後藤 敦史
Atsushi_Goto@office.otemon.ac.jp

1

追手門学院大学

本日の話題

- 追手門学院大学と本学図書館の概要
- 本学図書館のこれまでの教育支援としての取組
- そもそも「図書館」って
- ギャップの原因
- ギャップを埋めつつ、展開してみよう
 - 連携事例6件
- 連携してみて
- 「連携」から「運動」へ
- まとめ

2

追手門学院大学

追手門学院大学の概要

- 1966年大学創立(2018年に学院創立130周年)
- 所在地
大阪府茨木市
(JR茨木駅、阪急茨木市駅からスクールバス利用)
- 5学部8学科
 - 経済学部 経済学科、ヒューマンエコノミー学科
 - 経営学部 経営学科、マーケティング学科
 - 心理学部 心理学科
 - 社会学部 社会学科
 - 国際教養学部 アジア学科、英語コミュニケーション学科
- 大学院4研究科6専攻
 - 経済学研究科 経済学専攻 (博士課程前期課程・後期課程)
 - 経営学研究科 経営学専攻 (博士課程前期課程・後期課程)
 - 心理学研究科 心理学専攻 (修士課程)
 - 文学研究科 社会学専攻、中国文化専攻、英文学専攻 (修士課程)
- 学生数(大学院生を含む) 6,365名(2013年5月1日時点)

3

追手門学院大学

追手門学院大学の教育理念と教育目標

- 学校法人追手門学院の教育理念
 - 「独立自彊・社会有為～自由と調和の人間教育をめざして～」
- 追手門学院将来計画<追手門ビジョン120>
 - 2008年、学院創立120周年を機に制定
 - 重点施策:学院の一貫連携教育の推進。心の教育、キャリア教育、国際教育の推進
- 大学の教育目標:
 - 「生きる力(自己を理解し、社会人として自立する力)」「学ぶ力(自ら考え、判断し、表現する力)」「考える力(現在社会のさまざまな課題を発見し解決する力)」を備えた人材の育成

4

追手門学院大学

追手門学院大学の事務組織

5

追手門学院大学

図書館の概要(1/3)

- 施設
 - 独立棟(地上4階地下2階 延床面積 3,593㎡)と、連絡通路で結ばれた隣接する5号館の1フロア
 - 館内書庫の他、学内の保存書庫、学外倉庫を利用
- 閲覧席
 - 573席
(うちラーニング・コモンズ33席)

6

図書館の概要(2/3)

- 所蔵資料(2013年5月1日時点)
 - 図書 516,905冊(うち洋書159,196冊)
 - 雑誌 6,884誌(うち洋雑誌1,586誌)
 - 視聴覚資料 13,570種
- 貸出冊数(2012年度)
 - 40,226冊
 - (学部学生年間一人当たり貸出冊数6.0冊)
- その他の施設
 - 宮本輝ミュージアム
 - オーストラリア・ライブラリー

7

図書館の概要(3/3)

- 開館時間(授業期間)
 - 平日9:20-19:50、土曜9:20-17:00
- 利用対象者
 - 学部学生、大学院生、教職員(総計約6,500人)
 - 卒業生、退職教員、学外者
 - 学院内の学校の児童、生徒及び教職員
- 図書館職員数
 - 図書館長 1名(教員)
 - 専任職員 5名(兼務事務部長1名を含む)
 - 嘱託職員 1名
 - 定時職員 1名
 - 業務委託 17名
 - 学生スタッフ 6名(業務委託による管轄)

8

ついでに私の自己紹介

- 工学部卒業、大学院(博士課程前期課程)修了
- 専門は情報系
- 司書資格は持ってません
- 1995年から追手門学院大学に奉職
 - 1995年4月～2005年7月:総合情報教育センター(ネットワーク担当)
 - 2005年8月～2008年6月:教務課教務係(資格課程担当)
 - 2008年7月～2013年5月:教務課国際教養学部係
 - 2013年6月～:図書館

9

こんな私が見た図書館の学習支援

- 情報リテラシー教育
- 学生の利用・貸出促進
- 学習環境の整備

10

学習支援におけるこれまで(～2013年春学期)の取組(1/3)

情報リテラシー教育

- 新入生に対する図書館オリエンテーション
 - 2003年度から初年次教育科目「新入生演習」で実施
- ゼミ教員等の希望により、授業時間でのガイダンス
- 学生個人参加の図書館ツアー、データベース利用説明会ほか



11

学習支援におけるこれまで(～2013年春学期)の取組(2/3)

利用・貸出促進

- 資料展示
- 学生選書の実施(2003年度～)
 - 店頭選書、WEB選書
- 読書マラソン「巡読紀行」の実施(2007年度～)
- 図書の展示紹介(2012年度～)
 - 学生団体の食堂コラボ(期間限定メニュー)の関連図書展示
 - インターンシップ学生による図書紹介
- ブックトーク

12



学習支援におけるこれまで(～2013年春学期)の取組(3/3) 学習環境の整備

- 英語学習資料、就職活動資料の整備(2011年度)
- 蓋付き飲み物の持ち込み自由化(2012年度)
- ゾーニングの実施(2012年度)
- 指定図書制度の見直し(2012年度)
- ラーニング・コモンスの設置、貸出用ノートPCの運用開始(2013年度)
 - 文部科学省「平成24年度教育研究活性化設備整備事業」

13



取組の結果

- いろいろ面白そうなことをやってる!
- 来館者に対して図書館が考えてできることはやってきた(つもり...)
- 各月の来館者数・貸出数は昨年度より増加(2013年度)
 - 目標達成! か?!
 - 「目標」は誰のため? 「図書館」or「利用者」?
- でも、もっと利用者(学生・学修)支援をしなくては!

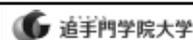
14



そもそも「図書館」って(1/2)

- 「広辞苑」第六版によると
【図書館】図書・記録その他の資料を収集・整理・保管し、必要とする人の利用に供する施設。

15



そもそも「図書館」って(2/2)

- 他部署職員
 - 「『図書館』って本を貸して、勉強する場所を提供すれば良いんじゃないの?
 - 「最近の図書館はなんかいろいろイベントしてるみたい」
 - 「学習支援って教員の仕事では?」
 - 自部署の仕事(事務)についてはプロフェッショナル。他部署については...
- 図書館員
 - 「文献でも情報でも探します。気軽にたずねてください」
 - これぞ図書館員(司書)の実力です!
 - 「もっと図書館員を活用して欲しい」
 - データベースの利用促進
 - データベース講習会の開催
 - 内容に直結するのはどの授業なのか→授業内でのデモ実施等
 - 学習支援
 - ラーニング・コモンスの設置
 - 全授業の教科書を資料整備→図書館委員会で審議保留となり、教授会で意見聴取
- 図書館員と他部署職員との間で意識や認識にギャップがある

16



ギャップの原因

- 物理的要因
 - たいていの大学図書館は別棟または別フロア
- 制度的要因
 - 大学各部署のセクショナリズム
 - 日本における「図書館」の偏った認識(資料の収集・保管等)
 - 図書館員は「司書」という専門職
 - 図書館外への人事異動が少ない
 - 業務委託化
- その他の要因
 - 学内の人事交流が少ない
 - 学内の情報があまり流れてこない
 - 学生の制度をあまり理解していない
 - 教育目標と自部署業務との関連検証不足(?)

17



学生から見ると

- 図書館員も他部署職員も同じような「事務員さん」
- 図書館と他部署との大きな違いは、「学生の主体的な居場所」があること
- 本を借りたり、自習したりする以外の図書館の使い方を知らない

18

ギャップを埋めつつ、展開してみよう

- 「使ってもらう図書館」から「使える図書館」へ
- 図書館の資源を有効活用した学習支援を
- 図書館が展開している学習支援を、図書館だけでなく、他部署と連携して実施してみよう
 - 他部署との相互理解、連動
- 図書館のコア・ユーザーは...「学生」
 - 学生に関わる人たちと連携して盛り上げよう
 - 授業、教員、他部署、...

19

連携事例1: 教員との連携 「授業関連図書」(1/3)

- 2013年度秋学期「全授業の教科書を資料整備しよう」
- 図書館委員会(2013年6月)で審議保留となり、教授会で意見聴取
 - 意見をみると、語学関係教員からの反対が多かった
 - 「学生が教科書を買わなくなる」
 - 「教科書を買って、書き込みながら勉強してほしい」
 - 「自分が履修している授業のテキストを用意しない学生がいて、授業の運営上非常に困る。そうした学生に、さらに『自分で買わなくても図書館にある』という間違った考えを持たせることにつながらないか」

20

連携事例1: 教員との連携 「授業関連図書」(2/3)

- 再検討→「授業関連図書コーナー」を設置して、教科書、授業で紹介する資料、課題の参考資料について教員の希望により配架する。
- 図書館委員会(2013年9月)で承認
- 全授業について各教員へアンケートを実施
 - 教科書の「授業関連図書コーナー」への配架の可否
 - 授業で紹介する資料の提示とその時期
 - 課題を出題する際の参考資料の提示とその時期

21

連携事例1: 教員との連携 「授業関連図書」(3/3)

- アンケート結果
 - 教科書配架可: 教科書を指定している授業の43%
 - 授業で紹介する資料の提示: 99冊
 - 課題の参考資料の提示: 9冊
- 2013年度秋学期より、教員と連携して「授業関連図書コーナー」を構築した



22

連携事例2: ベンチャービジネス研究所との連携 「『ビジネスプランコンテスト』の応援」(1/2)

- 図書館資源の利用促進と他部署との連携として、図書館業務委託チームから提案
- ベンチャービジネス研究所主催「ビジネスプランコンテスト」に参加する学生の応援展開
 - 活用できるデータベース案内をセットにしてベンチャービジネス研究所にて要項とともに配布
 - プラン作成・発表の参考になる資料の相談
- 図書館内掲示、図書館ホームページでコンテストの広報を展開
- ベンチャービジネス研究所ホームページで図書館の活動を紹介



23

連携事例2: ベンチャービジネス研究所との連携 「『ビジネスプランコンテスト』の応援」(2/2)

- 展開してみて
 - コンテストに関係した資料相談の実績なし
 - ラーニング・コモンズで発表の練習はしていた
- これまでの図書館の姿勢からさらに踏み出す必要あり
- コンテスト応募者のニーズの再検討が必要

24

追手門学院大学
連携事例3: E-CO (English Café at Otemon) との連携 (1)
「英語多読書の貸出」

- E-COの運営は業務委託
- 複本のある英語多読書をE-COに貸し出し、E-CO内での閲覧・活用を提案
 - E-CO外での利用希望者は図書館で貸出
 - E-COも同様の提案をしようとしていたらしい(後日談)
- 利用実績は不明
 - 知らずに持ち出そうとした学生がいたので、利用はある模様



25

追手門学院大学
連携事例4: E-CO との連携 (2)
「ブックトーク@E-CO」

- 図書館で開催している教員ブックトークをE-COで開催
- 図書館利用者とE-COユーザをターゲットに企画
- トークテーマはE-CO専属ネイティブ教員が企画
 - 同一タイトルで英語版と日本語版が存在する本を紹介
- 参加者は、教員1名、大学院生1名、図書館スタッフ
 - 授業の少ない時間帯に開催したが、奨学金説明会とE-CO内別イベントに時間帯が重複してしまった



26

追手門学院大学
連携事例5: 就職センターとの連携
「企業情報データベース検索セミナー」(1/4)

- 図書館が実施するデータベース講習会
 - 講師: 図書館員(学生スタッフを含む)、データベース・ベンダー
 - 会場: 図書館、授業内(データベース・ベンダー講師によるセミナー(1回)を関連分野の希望教員へ提供)
 - 残念ながら、図書館内で実施する講習会は参加者が少ない
- 企業情報データベースについては、経営学部の「入門コンピュータ2」でセミナー実施予定だったが、授業進行の都合で今年度は見送りの申し出(2013年10月下旬) → セミナー1コマ分を図書館で活用することに
- これまで、このデータベースについて就職センターへ紹介・活用を働きかけていたが実現せず

27

追手門学院大学
連携事例5: 就職センターとの連携
「企業情報データベース検索セミナー」(2/4)

- 課長間調整を経て、就職センター業務委託チーフへ図書館から共催セミナーを提案
- 共催にした理由
 - ニーズの絞り込みが容易にできる
 - 就職の主管部署である就職センターの展開に合わせたセミナーにコーディネートできる
 - カリキュラムの一貫性
 - ベンダーから他大学での実績によるセミナー内容提案
- 集客力
 - 学生の信頼
 - 「就職」における学生の認識は、就職センター → 図書館
 - 対象学生の選定力
 - 「誰に必要な情報か」: 就職における学生の情報は就職センターが持っている
- 図書館の資源を知って欲しい
 - 会場は図書館で
 - 図書館の就活サポートの紹介ができる

28

追手門学院大学
連携事例5: 就職センターとの連携
「企業情報データベース検索セミナー」(3/4)

- 展開してみても
 - ニーズの絞り込み
 - ベンダーと三者で事前打ち合わせ(ベンダー提案からほとんど修正なし)
 - 開催時期は11月下旬が妥当と就職センターが判断
 - 集客: 26名
 - 就職センターの「アドバンスセミナー」受講生へ就職センターが広報。20名参加
 - 図書館、就職センター掲示で広報。6名参加(当日申し込み含む)
 - 図書館の展開も知られた
 - セミナー後に電子ブックでの就活本の展開を紹介
 - 後日、カウンターに問い合わせが発生
 - アンケート
 - 好評

29

追手門学院大学
連携事例5: 就職センターとの連携
「企業情報データベース検索セミナー」(4/4)

- その後の思わぬ展開
 - ベンダー講師から、当初予定に加えてもう1回開催しても良いとの申し入れ → 就職センターとしては、別の時期に別の切り口で開催希望
 - 教職員のロコミで、教員から経済学部3年生ゼミでの開催希望の申し入れ
- ゼミでの開催希望への対応
 - 当該ゼミの授業で開催。ただし、セミナーへのゼミ外参加と学内募集をゼミ教員が承諾
 - 講師は、就職センター職員と図書館職員とで担当
 - 就職活動指導: 就職センター職員が企業の見方を独自プレゼン
 - データベース: 図書館職員がベンダー作成資料により説明
- 実施結果
 - 参加者16名(当該ゼミ生のみ)
 - アンケート結果は好評



30

連携事例6: 学生団体との連携 「茶道部×図書館」(1/2)

- 学生団体の活動紹介とブックトークを図書館で展開
→学生団体と図書館を知る機会
- 第1弾として、茶道部のお茶会を図書館テラスで開催
- ブックトークには、茶道部員と図書館学生スタッフが参加
- イベントの開催日時、内容は茶道部部長の提案を中心に企画
 - お茶会の方法は立礼(りゅうれい)で。椅子での開催が可能
 - 学生目線で学生が参加しやすい曜日時限の提案
→特定の曜日に偏らず、2日で3回実施(各回定員20名)
 - 学生団体のネットワークを活用し集客
→団体の発表等には他の団体も参加する(慣習?)

31

連携事例6: 学生団体との連携 「茶道部×図書館」(2/2)

- 各回とも定員を上回る参加者
- 茶道部員も積極的な参加、運営
- 参加学生の声は好評
 - 初めてお茶会に参加した
 - とても良い企画。もっといろんなクラブを取り上げて欲しい
- 茶道部員にとっても図書館運営の理解を得られた
- 国際交流教育センター等、他部署とも連携できたかもしれない



32

連携してみる

- その道のことは、その道の人に訊くと、「ニーズ」と「タイミング」、「方法」が見えてくる
→授業のことなら教員、就職なら当該部署、学生のことなら学生に...
- 企画が良くても...
 - テーマと学生の関わり方
 - 組織構成と業務分掌の理解
 - 関連部署との相互理解・情報共有
 - 関連部署の企画に対する理解・協力
 - タイミング、スケジュール
- どれかが欠けると、残念な結果に
- 各部署と事業計画の共有ができるとうれいかも

33

連携は、やればできる

- 専門職のプライドを持ちすぎない
 - 専門職の知識・技術は単なる手段
 - 専門用語を意識する
→乱発しない
 - 目的に対して知識・技術をいかに活用できるかが真の専門職の価値
→ソリューション力
→これぞ専門職のプライド
- 周りを見よう。お互いを理解しよう
 - 自分の(部署の)仕事以外にも目を向けよう
 - まずは、自分から他部署の職員または図書館員と話してみよう
→どの部署で、どんなことをしてるのか
 - 学生のためにできることは何か。やりたいことが別の部署で別の形なら
できるかもしれない。
→最終目標は「学生の学習支援」
- 他部署の仕事に干渉するのではなく、理解し一緒に考える
「自部署でできることは何か」
- 多くの部署で(or)多くの経験を積むのがベター
- 人的ネットワークの構築と情報交換・情報共有を

34

「連携」から「連動」へ

- テーマの担当部署のカリキュラム(=当該部署の学習支援)にのることが肝心
 - どこかの部署がするのではなく、協業・連動する
→役割分担
 - 物理的な問題はすぐには解決できない
→連携して、連動することでカバー
 - 学生が受けるストーリーの一貫性の確保
- ↓
- 一貫性のある学習支援

35

まとめ

- 各部署の相互理解が「連携」の第一歩
→全学的相互理解の仕組みがあるとベター
- 図書館(または自部署)だけでなく、他部署とともに計画・実行する=「連動」
- 部署間連携・連動で供給側も効率的な学習支援
- 学生が受けるストーリーの一貫性を保つ
→効率的な学生・学習支援
- 部署間から大学規模へ→大学規模の学習支援

36

大まとめ

- 「教育」は「環境」から
- 全学が「連携」「連動」して、学生が学びやすい環境を
- そんな環境を提供することが真の「学習支援」

37

ご清聴ありがとうございました。

